

国立大学法人評価委員会による平成30年度評価結果を業務改善等に反映した主な事例

令和2年6月

評価結果	業務改善等に反映した事例
<p>○ 千葉大学グローバル人材育成“ENGINE” “学部・大学院生の全員留学”を目指して、グローバル人材育成戦略を更に拡大展開するプランとして、「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を策定し、令和2年度から新たに実施することを決定している。</p>	<p>本プランでは、多様な留学プログラム、SULA（Super University Learning Administrator）の増員や奨学金の支給などの留学支援体制を強化するとともに、外国人教員の増員等による専門英語カリキュラムの充実、さらに、ICTを活用した多方向個別学習（スマートラーニング）システムにより留学中でも科目履修が継続出来る教育環境の整備を行った。</p> <p>（1）同プランの実施に伴い、全学の「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」について見直しを行ったほか、各学部、研究科・学府においては、各ポリシーの関連性や一貫性及び現行カリキュラムの在り方について見直しを行った。</p> <p>（2）学修時間の増加に係る取組として、時間外学習のe-learning化推進による授業のアクティブ・ラーニング（スマートラーニング）の実施に向け、「スマートラーニングの実施に関する基本方針」「千葉大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する要項」、教員向けの手引きとなる「千葉大学メディア授業実施ガイド」を策定し、ICTを活用した授業科目の拡充を図っている。</p> <p>（3）学長のリーダーシップにより、本学の機能強化に資するENGINE事業等に対して、重点的に学内予算の再配分等を実施するとともに、学生の全員留学に対応できるように事務組織の見直しを図り、学務部国際企画課、留学生課に専門職員の配置を充実させるとともに、これら二つの事務組織を総合学生支援センター棟の2階に集約させて、学生の海外への送り出しから留学生の受け入れまでを担当する事務組織を一体化させて機能の効率化を図った。</p> <p>（4）本プランの推進に向けた教育研究支援体制の充実・強化を図るため、令和元年度に高い語学能力と円滑なコミュニケーション能力を有し、学内外を問わずリーダーシップを発揮して業務の遂行ができるスペシャリストを採用する事務職員（グローバル人材枠）の独自採用試験を実施し、本学の国際教養学部卒業生を含む5名を採用した。</p>

参考1：評価結果の反映状況について

国立大学法人等は、評価の結果を、法第31条第1項に規定する中期計画及び準用通則法第31条第1項に規定する年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させるとともに、毎年度、評価結果の反映状況を公表しなければならないこととしたこと。（準用通則法第28条の4）

※平成27年3月31日 26文科高第1147号 P10 その他 http://www.jm.chiba-u.jp/houmu/hourei_tuchi/resource/H27-134tsuchi.pdf